

教材・支援機器活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(29)年度 フラッシュカードアプリを使用した漢字の読み指導 (個別指導における漢字指導の一環として)
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	漢字の読み・書き
	授業の目標	小学校3年生までに習った漢字の中から、対の意味を持つ漢字2文字を取り上げ、それら漢字の読み・書きを定着させることを目的とし、個別指導を行った。
	観点別学習状況の評価の観点	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識・理解」 <input type="checkbox"/> 「技能」 <input type="checkbox"/> 「思考・判断・表現」 <input type="checkbox"/> 「関心・意欲・態度」 <input type="checkbox"/> その他()
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input checked="" type="checkbox"/> その他(個別の取り出し指導) <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (4)年 (1)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input type="checkbox"/> LD(学習障害) <input type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input checked="" type="checkbox"/> その他
	子供の課題(特性・ニーズ)	<input type="checkbox"/> 見る <input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input checked="" type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 書く <input type="checkbox"/> 計算する <input type="checkbox"/> 推論する <input type="checkbox"/> 運動と姿勢 <input type="checkbox"/> 日常生活活動 <input type="checkbox"/> 不注意 <input type="checkbox"/> 多動性-衝動性 <input type="checkbox"/> 社会性・コミュニケーション <input type="checkbox"/> 覚える・理解する <input type="checkbox"/> その他 対象となる児童は、特に診断は受けていないが、読むこと、書くこと、ともに困難さがあり、中でも特に、漢字の読み・書き、読みの流暢さ、語彙力、理解力に問題を抱えている。今回実施したアセスメントでは、音韻、形の認知に弱さが見られている。また、注意の転導が激しい、切り替えが難しい、といった特性も目立つ児童であり、一斉授業でも個別指導でも、集中を保つのは困難である。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称と画像	iPad、アプリ「フラッシュカードメーカー」© 2014 Yuki Kubota(App Storeより無料ダウンロード)
	活用のねらい	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) 個別の取り出し指導で扱った漢字について、単語単位(音読み・訓読み)のフラッシュカードを複数回実施することで、漢字の読みの定着を図るとともに、単語を視覚的に記憶させる。
授業に授業者展開支援	授業展開と画像	短時間で集中して行えるよう、5枚前後のカード(単語)を1セットとした。1セット内には、事前の指導で学習した対の意味を持つ漢字2文字を使用した単語の中から、訓読みの単語(例:始める、終わる)と音読みの単語(例:開始、終了)の両方を入れた。同じ単語セットに対し、2パターンの形式でカードを作成し、実施した。本児が間違った読みを身につけることがないよう、必ず正答できるような形式を考えた。 1パターン目は、カードの表のヒント(例:○○める、かい○)を見て、裏の漢字単語(例:始める、開始)を読んでもらう形式で行った。2パターン目は、表の漢字単語(例:始める、開始)を読んでもらい、裏の正答(例:はじめる、かいし)を確認するという形式で行った。それぞれ、カードの順番をランダムに入れ替えて、複数回実施した。 スムーズに実施するために、iPadの操作は指導者が行った。
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	iPadの使用が学習に対する大きなモチベーションになり、指導中は、注意が逸れることもなく、積極的に取り組んだ。 1パターン目の施行では、事前の指導で扱った単語だったため、表のヒント(例:○○める、かい○)の時点で推測して、裏の漢字単語(例:始める、開始)を見る前に回答した。回答速度も速く、テンポよく進められた。2パターン目の施行も、スピーディーに正答できた。 2週間後の指導で行った確認問題では、読みに合う漢字を書くことができた。